

「ありがとう」の気持ち

八代市立坂本中学校 3年 井手口 七海

皆さんは、人のためになることをして「ありがとう」と言われたら、どんな気持ちになりますか。「ありがとう」と言われた人は、きっと喜びと同時にやりがいや達成感を感じるのではないのでしょうか。

私は、ある二つのきっかけを通して、この「ありがとう」という感謝の言葉について深く考えることができました。

一つ目のきっかけは、部活動です。私はボランティア部に所属し、人のため、学校のためになる活動をしています。中学校に入学し、まだボランティアの意味が分かっていない時は、とにかく先輩や先生の指示に従って、その時に課せられた仕事をしていました。だから、「面倒くさい」「なぜ、私たちがしなくてはいけないの」という考えを持ったことがありました。しかし、活動が終わった後には、必ずと言っていいほど、「お疲れ様」「ありがとう」と言われ、とても嬉しい気持ちになりました。些細なことでも褒めてもらうことができ、こんな小さなことでも周りの人は喜んでくれるのだと気付きました。それからは、少し大変な活動でも嫌な顔をせずに、責任を持って取り組むようにしています。昨年からは、ボランティア部のキャプテンとして、助け合うことの大切さや素晴らしさ、また、辛いときこそ励ましの言葉をかけ合おうと後輩にも伝えながら、楽しく頑張っています。

二つ目は、父の言葉がきっかけでした。私は中学1年生の時、父に仕事についてのインタビューをしたことがあります。父は「仕事は大変だけど、様々な人と知り合え、感謝されることが嬉しい」と言っていました。私は、初めて、父の仕事に対する思いを知ることができました。それまでは、暑い日も寒い日も、雨の日も雪の日も外で仕事をするなんて大変だなと思っていましたが、父の思いを知り、改めて父の偉大さに気付きました。毎日仕事を頑張ってくれている父に感謝の気持ちを伝え、父の手助けになることをしていきたいと思いました。

自分のためではなく、誰かのために動くということは、大変なことです。しかし、お互いに助け合ったり、励ましの言葉や感謝の言葉をかけ合ったりしていくことで、「嫌だな」「やりたくないな」と思うことも、楽しく前向きに頑張ることができるのではないかと思います。

これからの人生の中で大変なことも多いと思いますが、「ありがとう」という感謝の気持ちを持ちながら、誇りを持って生活していきたいです。